

マネージメント・レター 240

決然と腹をくくり徹底した手を打つ

沖縄県宮古島には、次のような方言があります。プリユシナンマイ（よせてくる波さえも）アマイズミライ（笑っているようにさえ見える）。宮古島には日々、様々な波が寄せてきます。晴れた日の穏やかな波ばかりでなく、台風のような嵐の日の荒波もあるでしょう。しかし、どのような波であっても、さも笑っているかのように見えるということです。

つまり物の捉え方は自分次第という意味。どのような波であっても、笑っているのか、怒っているのか、それをどのように捉えるかは、自分次第だという方言です。

昨年の米国発の金融危機の影響を受け、百年に一度の大不況と言われる状況が続く今日、不況という波はどのように見えるでしょうか。怒っているのか、笑っているのか。苦しい波だと嫌っていると、その波はそのように見えるでしょう。このような波は最高だと喜んで受け止めれば、そのように見えるでしょう。

常識の範囲内で考えれば、「苦しいことは苦しい」「嫌なことは嫌」です。しかし、常識を超えた時、苦しみは苦しみではなく、寄せてくる波のように笑って見えることとなるのです。自分の捉え方次第で、いかようにも現象は変わってくるのです。それにはまず、現状をしっかりと受け止めるべく「腹をくくる」こと。苦しい時こそ現状をしっかりと受け止めることが大切です。経営は山あり谷あり、平坦な道ばかりではありません。ならば「苦しいことは当たり前」と割り切ってしまうことです。腹が決まったら、次は状況確認。時には新たな手を打つことも必要です。商品戦略や販売方法など、時代が進むにつれて、変えていかなければならないこともあるでしょう。世の中の変化に合わせて、変えられるものは変えていく。旧態依然では時代に取り残されてしまいます。これまでの手法に捉われず「新たな手を打つ」ことも大切なのです。

更には、「徹底してやる」こと。徹底とは、底まで貫き通ること、残すところなく行き届くことをいいます。自分がどこまで徹底しているのか、逆に、やっているつもりになってはいないかを、冷静に振り返ってみましょう。

この百年に一度の大波を、皆さんはどう捉えますか。（社）倫理研究所法人局資料より

 今月のワンポイント 

経理業務、資料作成等...パソコンでの業務は多岐に渡りますが、日々の業務の中でつい後回しになってしまうのがデータのバックアップ（退避）作業です。

データ破損の原因は「パソコンの不具合」だけとは限りません。PC ウィルス感染や火災、盗難といった外的要因による場合もあります。

バックアップ作業を会社の危機管理業務として積極的に取り入れることをお勧めします。